
 学 校 名 岐阜県立中濃特別支援学校

 校 長 小 栗 一 宏
 学校住所 関市桐ヶ丘2丁目3番地 電話 0575-24-1773

1 会議の名称 岐阜県立中濃特別支援学校を支える会

 2 会議の構成 評議員 福島 房子 (株)フクシマ化学 取締役会長
 大須賀 敏 (社)関青年会議所 理事長
 植野 明(欠) 向山町長寿会 会長
 菊池 啓子 中部学院大学短期大学部 教授
 須甲しのぶ 岐阜県立ひまわりの丘 第一学園次長

 学校職員等 小栗 一宏 校長
 中嶋 なをみ P T A 会長
 加藤 和宏 事務部長
 山下 雅樹 教頭
 大前 裕子 小学部主事
 高木 茂和 中学部主事
 高山 務 高等部主事
 今井 滋行 分教室主事
 河合 浩司 教務主任
 横田 真 進路指導主事

3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。

 4 会議の開催 日 時：平成28年1月14日(木)9:30~11:00
 会 場：中濃特別支援学校校長室
 出席者：学校評議員4人、学校職員等10人

 5 会議の概要 (1) 学校行事「紙と光のアート展」参観
 (2) 学校長挨拶
 (3) 自己紹介(前回欠席者)
 (4) 学校評価アンケート結果について
 (5) 平成27年度の教育について(各部報告)
 (6) 進路支援について
 (7) 意見および提言

6 ご意見

意見1：小学部の活動を見て、高等部卒業後の進路を見据え、生活単元学習、日常生活の指導を大切にされている点に頭が下がる。就労の道が開かれることがこれから大切になってくる。保護者はまだ先のことが見えないでいるが、少しずつアナウンスをしていくことが大切。

意見2：中学部では体力の向上に目を向けている点がよい。前年度から今年度への成長、全国などとの比較をするなどして、達成感を得られると、教員の士気も上がってくる。

意見3：学校評価アンケートの結果を見ると、保護者の高い評価を得ている。これは日々の先生方の努力の賜物だと感じている。E「わからない」という評価が多かったところは、情報を公開するという点が弱い。

意見4：小学部では日常生活の指導を大事にしているとの話だったが、福祉施設についても個々に適

した生活の力をつけるのが大切である。また、中学部、高等部と将来的な進路につなげるための学習、実習を行うことが大切である。

意見 5 : 小学部では進路についても保護者が先を見通せるようにしていくことを課題として持っているところが素晴らしい。

意見 6 : 高等部の中においてA、B、C、D類型があるが、それぞれに保護者の思いは様々であり、福祉就労、企業で異なってくる。高等部も30人以上が外部の中学校から入学されており、その保護者達は、私たちはちょっと違うといった意識を持っている感じがする。

意見 7 : 高等部では分教室での課題が生まれた一年となった。仮設校舎の問題も含めてどのようにしていくか。県に要望を立てていけたらよい。

意見 8 : あかりアートを見学して素晴らしいと思った。小学部、中学部、高等部の指導、素晴らしい努力をしている。児童生徒の姿を見ても一人ひとりが伸び伸びしている。大変な仕事だと思うが、熱意があり真面目に取り組んでる。企業として何かお手伝いができたらいいと思っている。

7 会議のまとめ

関特別支援学校内に分教室を設けた本年、分教室から一年の活動報告もあり、まだまだ多くの課題があるということが、ご理解いただけた。

高等部の卒業後の進路のために小学部段階から系統的な指導が望むご意見が多かった。しかしながら、分教室は中学校から進学してきた生徒が多く、小中学部で行なう指導がなされていない。生徒の特性や実態を着実に踏まえ、分教室ができたことをメリットとして次年度につなげることが示唆される会議であった。